

今週のメニュー

■トピックス

地球にやさしい玩具を提供するマテル社を取材して

■随想

古代ヤマトの遠景〔番外〕（48） 素菱鳴尊（3）

木下 清隆

■編集後記

■トピックス

◇地球にやさしい玩具を提供するマテル社を取材して

世界大手の玩具メーカーである米国マテル社の日本法人であるマテル・インターナショナル(株)が、2021年6月、海洋プラスチックのリサイクル素材を使用した「バービー うみとともだち」シリーズの発売について発表しました。この新しい「バービー」と環境への取組みについて、同社のバービー担当者の小林美穂さまにオンラインで取材しましたので紹介します。

マテル社は、バービーのほか、ホットウィール、きかんしゃトーマス、フィッシャープライス、ウノなど世界的に有名な玩具やファミリー向け製品を取り扱っています。玩具には多くのプラスチック素材が用いられており、フィギュアなどには塩ビも使用されているようです。ただし、各々製品にどのような種類の素材を使用しているのかは非公開だそうです。

—「バービー うみとともだち」の概要について教えてください。

・マテル社は全社的に取り扱っている製品を2030年までにリサイクルした材料、再生可能な材料、又はバイオベースの材料に変えていこうという目標を掲げており、その活動の一環として、今回「バービー うみとともだち」を商品化しました。ドール（人形）には海洋プラスチック由来のリサイクル素材を90%使用し、ドレスやアクセサリなどプレイセットには90%以上のリサイクル素材を使用しています。今回のように90%以上の海洋プラスチック由来の素材使用はバービー史上初になります。パッケージには、FSC 認証紙^{※1}を使用しています。



「バービー うみとともだち」 提供：マテル・インターナショナル

—製品開発に当たってどのような点を意識されていますか。

・玩具は子どもの成長や将来に大きな影響を与えると考え、子どもの可能性に満ちた明る

い未来を守るべく、その時代や社会性を反映した、相応しいメッセージを込めるように開発に取り組んでいます。また、子ども自身にはわからなくても、親子・家族で玩具に込められたメッセージを話題にすることで、環境への意識が高まり、コミュニケーションが子どもの教育の面でも重要な役割を果たしていると考えられます。このような理由から、長い目線で先を見据えて製品づくりをしています。最近では、商品開発だけでなく、YouTubeを利用してお子さまにもわかりやすいような動画を配信することで身近なことで環境への意識が動画で伝わるような取り組みもしています。

—製品の人気が続いている秘訣・要因は何でしょうか。

・バービーやホットウィールなどは、この分野においても先駆者であったこと、その時代に合わせて変化を遂げて、広い視野と高い目標を掲げてメッセージを発信し続けていること、SDGsにもあるように多様性を重視してきたことではないでしょうか。このような取り組みが子どもたちに影響していることを信じて、高い目標にチャレンジしながら開発を続けていることが、社会に評価されていると思います。

同社は現在世界 150 か国以上に展開しており、玩具を通して環境にいいことを発信し、子どもたちに未来を考えるきっかけを提供しています。VEC は玩具に多く使用されているプラスチック素材についても正しく理解され、環境に社会に貢献していることを今後も発信していきたいと思っています。

※1) FSC は Forest Stewardship Council (森林管理協議会) と呼ばれている組織で「森林認証制度」を運営する非営利・非政府の国際組織。FSC 認証紙は、管理された森林の木材のみを使用しているため、違法伐採された木材は使われることはありません。

■ 随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕 (48)

木下 清隆

すさのおのみこと 【素戔鳴尊 (3)】

<前回とのつながり>

素戔鳴尊は、謎に満ちた存在である。前回、尊は熊野大神とみなされて、熊野大社に祀られていることを紹介したが、本当のところはまだ謎である。今回もその謎解きである。

4 素戔鳴尊と熊野大社

このような検討から熊野大神 くしみけぬのみこと 櫛御気野命 は素戔鳴尊であろうとの結論が得られたが、これは時間的な前後関係からいえば、もともと、素戔鳴尊が存在し、その素戔鳴尊が後で熊野大神櫛御気野命に名が変わったとの認識が基本にある。だから、櫛御気野命は、本



須佐神社

当は誰なのか、との詮索が古来続けられて来たのである。

ところが、ここで発想を転換し、本来、櫛御氣野命と云われていた熊野の大神がその後、素戔鳴尊と称されるようになったとしたら、一体どのようなことが考えられるのだろうか。要するに素戔鳴尊は記紀の編纂過程、或いは古事記の原本となったようなものの制作過程で、創作されたと考えるのである。『出雲国風土記』によれば、出雲西部の飯石郡に須佐郷があり、そこに須佐能袁命と名付けられた神が登場してくる。他の場所でも何度か顔を出す、名前が出てくる程度でほとんど活躍しない神である。この須佐能袁命を記紀が借用したとすれば、どんなことが考えられるかである。記紀の編者はその神名、スサノオを借用して、神話の中で素戔鳴尊という出雲を代表する悪役イメージの大看板に仕立て上げたのではなかろうか。そして、出雲が天孫に国譲りするのは当然であるとのストーリーを組み立てたのではなかろうか。

以上は、記紀において須佐能袁命の名称が借用されてはいるが、この命は実体的には存在していないとの想定での話である。しかし、須佐能袁命が歴史的に存在していた人物である可能性は、仮定としては残されている。この場合、この命は須佐郷で何か大きな働きをしたことで、土地の人々に敬愛され、没後、御霊が祀られるようになり、いつしか須佐能袁命と呼ばれ、土地の守護神として祀られるようになった、との考え方である。この実在の須佐能袁命をベースにして記紀の中で素戔鳴尊が誕生したとするなら、素戔鳴尊は史実の一面を背負っていることになる。

このような認識で記紀の中の素戔鳴尊を見てみると、高天原での悪行とその後、出雲に天降りして後の行動とは余にも違い過ぎることが分かる。このことは、高天原での悪行の話は記紀において創作されたと考えられ、出雲での八岐大蛇退治物語は、以上のような仮定から実在の須佐能袁命に関する史実を反映したものではないかと想定されることになる。



立久恵峡（神戸川の溪谷）

「出雲国風土記」には各郡に存在する社が郡毎に列記されているが、飯石郡の場合は、須佐社（現在は須佐神社）はその筆頭に挙げられている。更に川の上流に位置する須佐郷の地名も記載されている。従って、風土記編纂時代より遙かに古い時代から、この地では「須佐」或いは「須佐能袁命」が親しまれていたことになる。このように考えてくると、須佐能袁命を実在の人物とするなら、八岐大蛇退治物語の場所は神門川^{かんどがわ}

（現在は神戸川）の上流でなければならないことになる。ところが記紀共に斐伊川の上流をその場所としており、神門川は出てこない。斐伊川の上流については、古事記のみがその場所を「鳥髪」と特定しているが、ここは鉄の産地とされているだけで、素戔鳴尊に係わるようなものは「出雲国風土記」には何も記されていない。

このような状況から、斐伊川と素戔鳴尊との関係は無さそうだとすると、ここで想定していることが或る程度真実味を帯びてくることになる。そして記紀における場所の記述は

意識的に変更されていることになる。その理由は明確ではないが、何かを隠蔽しようとしているのかもしれない。具体的には「神門」という地名を隠し、須佐能袁命と神門とが結びつかないようにしている、といったことは考えられる。

以上、素戔鳴尊のモデルとしての須佐能袁命が、歴史的に存在していた可能性のあることを示したが、ではなぜ『出雲国風土記』の中に、記紀神話の中のような素戔鳴尊による八岐大蛇退治物語が登場しないのだろうか。

それは記紀が基本的に作り上げようとしていた世界と出雲の置かれている立場との違いから来ていると云えよう。記紀が編纂された重要な目的の一つに「出雲の国譲り」がある。このことは書紀においては、大己貴命おほなむちのみことを登場させ、この人物に国譲りを承諾させることによって、あたかも全てが旨く行ったかのような内容に仕立て上げられている。この人物が譲ったのは出雲なのか、倭国全体なのかは論議の分かれるところであるが、倭国全体だったとしたら、きわめて大きな問題が後に残されることになる。それはこの人物が「建国」の英雄であることになり、その多くの足跡や業績・事跡を抹消しなければならなくなるからである。ところが記紀にはそのような事跡の抹消等は、当然であるが何も記録されていない。そこで、この命が創作された人物であると考えれば、事跡などであろうはずが無く、従って、抹消する必要もなくなってくる。従って、記紀は大己貴命を創作して、この命が譲ったのは、出雲だけだったと思わせるように説いたことになる。

ところが国譲りが、歴史的に実在した人物からのものであるとすれば、その事跡等の抹消が現実的に必要となってくる。このことがこれまで述べてきた「出雲隠し」と、直接的に結びつくとするなら、この人物は建国の英雄だったことになる。

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いに存じます。>> [\(筆者\)](#)
「古代ヤマトの遠景」：[バックナンバー](#)

■ 編集後記

PVC Award 2021（テーマ：生活を豊かにする PVC 製品）の公募を行っています。PVC（素材）の持つ優れた特長を活かすと共に、様々な機能を付与して、私たちの生活の利便性向上や、環境配慮・リサイクル・安全・防災など社会のニーズに応える新しい製品を募集しています。応募期間は2021年7月1日～9月30日。大賞には賞金100万円を用意しています。販売開始5年以内（2016年7月1日以降上市）のPVC製品（軟質・硬質全塩ビ製品、他の材料との複合品）、及び来年2022年12月までに商品化予定の製品が対象です。応募用紙に写真を貼付し作品の特徴を記入して、奮ってご応募ください。

詳しくは公式ホームページ（<http://www.pvc-award.com/>）をご覧ください。

(PVC Award 事務局)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp
